

10月31日(日)・大会2日目 10:40~12:10（組織論レビュー【11】会場）（90分）

●組織論レビュー セッション【11】

「成員の退出と社会関係資本：問い直される組織の境界」

＊横田一貴（一橋大学大学院 経営管理研究科 博士課程）

＊代表報告者

〔 概 要 〕

人材は、組織にとって重要な経営資源の一つである。それ故、組織が意図せずその成員を失うことは、実務界においてもアカデミアにおいても回避すべき事態として捉えられやすい。

しかし、経営学の既存研究を紐解いていくと、「成員を失うことによって、かえって組織に正の効果をもたらされる場合がある」という議論が存在することがわかる。

本研究では、主に人的資源管理論・組織行動論における離職研究と、イノベーション領域の転職研究の二つの領域を横断しながら、組織が成員を失うことの合理的側面を社会関係資本の視点から整理していく。結論を先取りすれば、組織と退出した成員との間の社会関係資本が離転職後も存続するという視点に立ったとき、組織が成員の退出をある程度許容することの合理性が見出されるのである。

〔 参加者へのメッセージ 〕

本報告が提起するのは、簡潔に言えば「成員に退出されてしまうのは組織にとって悪いことなのか？」という問いです。これに対して、ある程度退出の起こる組織の方が望ましい、ということを説明するメカニズムを、本報告では社会関係資本に結びつけて整理しています。

もちろん、本報告で紹介する既存研究の他にも、成員の退出の合理的側面を指摘できる研究事例や、視座はあるかもしれませんので、ぜひご意見・ご紹介いただきたく存じます。

組織にとって成員の退出が起こることの正負両様の効果に関する議論が、活発に行われるきっかけとなれば幸いです。